

BK セット

10メートル用使用説明書

このたびはBKセットをお買い上げいただきありがとうございました。

BKセットは、コンクリート構造物などのひびわれに、エポキシ樹脂を注入するための材料・器具をセットにしています。使用に際しては注入ノズルに合う市販のグリースガン(裏面を参照ください)を購入してください。

内箱に納められている材料・器具および数量をご確認ください。ひびわれの隅々まで確実に注入するため、この使用説明書をお読みください。BKグラウト、BKシールは、日本接着剤工業会・ノンホルムアルデヒド(F☆☆☆☆)の登録製品です。(登録番号 BKグラウト JAIA-005061 BKシール JAIA-002898)

シール材 A

シール材 B

注入材 A (赤)

注入材 B (青)

注入ノズル

取付パイプ

リング

注入量制限筒(ビニール製)

BKインジェクター

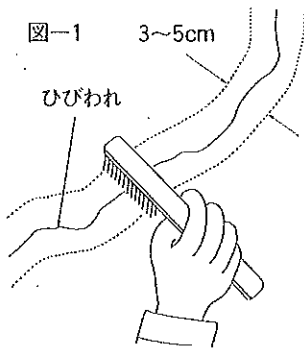
チューブクランプ

BKセット内容			
材	注入材 (BKグラウト)	A (600g)	2缶
		B (300g)	2缶
料	シール材 (BKシール)	A (250g)	3本
		B (250g)	3本
器 具	BKインジェクター		30本
	取付パイプ		30ヶ
	注入ノズル		2本
	チューブクランプ		2本

【施工法】

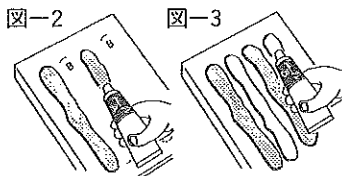
1 表面処理

- ワイヤーブラシで、図-1のように、ひびわれにそって3~5cm幅で表面をきれいにする。
- ワイヤーブラシ処理面のホコリや水分などのよごれを、ウエスで拭拭します。



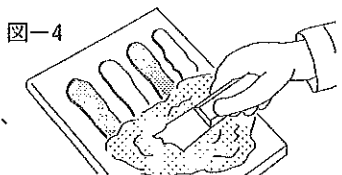
2 〈シール材A〉と〈シール材B〉の練り混ぜ

- 〈シール材A〉を図-2のように、合板などにしぼり出します。
- 〈シール材B〉を図-3のように、合板などにしぼり出します。
- 〈シール材A〉と〈シール材B〉を図-4のようにヘラで色むらがなくなるまで練り混ぜます。



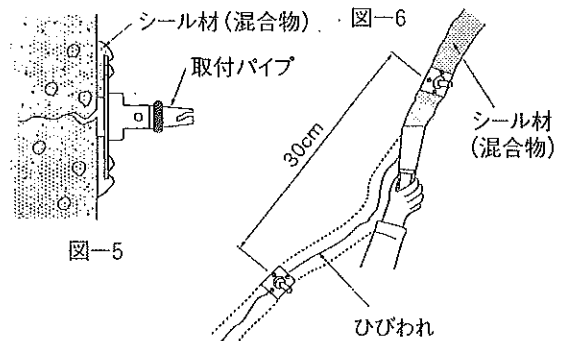
〔使用上の注意〕

- 〈シール材A〉と〈シール材B〉の混合比は、1:1です。
- シール材AとBを練り混ぜると、混合物は徐々に硬化します。使用可能時間は、気温が
10℃で30分、
20℃で10分、
30℃で5分程度です。



3 取付パイプの接着とひびわれのシール

- シール材AとBの混合物をヘラで取り付けパイプの座金(中央の穴に入らないよう)の周囲に1mm程度の厚みで盛り付けし、座金中央の穴がひび割れのセンターにくるよう、座金をコンクリート面に押し付けます。このとき座金にある4つの穴からシール材が出てくるのを確認したうえで、図-5にあるようにシール材を座金周囲に盛り付けます。
- 取り付けパイプは30cm間隔で接着します。
- 続いて、混合物でひびわれを図-6のように、完全に塞ぎます。



4 シール材の硬化養生

- シール材が後工程の注入圧力に耐えられる硬さになるまで養生します。
- 養生時間は、気温が10℃で150分、20℃で120分、30℃で60分です。
- 養生時間の判定は、シール材をヘラなどで押し当て、跡形がつくか否かでを行います。跡形がつかなければ養生は充分です。

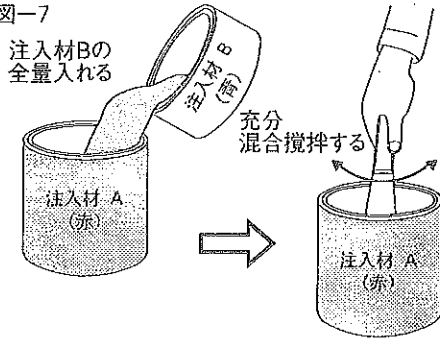
5 〈注入材〉のグリースガンへの充てん

- ・グリースガンのキャップ部分に既にノズルがついている場合にはそれをはずし、代わりに備え付けの注入ノズルをネジ込みセットし、グリースガンのキャップは本体よりはずしておきます。
- ・注入材Aの容器へ注入材Bの内容物の全量を移し、金へら等でAとBが均一になるよう混合攪拌します。2分程度が目安です。
- ・混合した注入材をグリースガンへこぼれないように移し、キャップをします。

〔使用上の注意〕

- ①注入材AとBを混合すると、混合物は徐々に硬化します。
- ②使用可能時間は、気温が10℃で90分、20℃で70分、30℃で30分程度です。

図-7

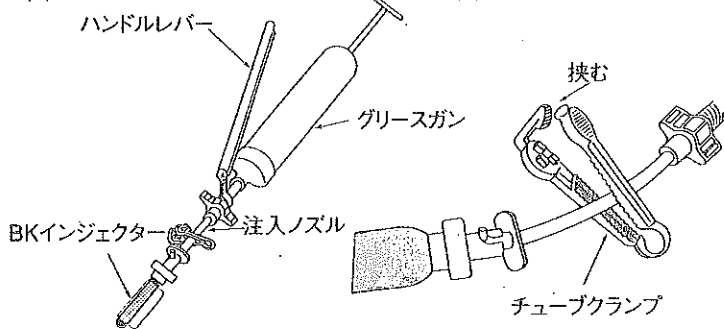


6 BKインジェクターへの充てん

- ・グリースガン内部には空気が残っていますので、グリースガンを下向きにしてガンのレバーを操作し、中の空気を除きます。
- ・BKインジェクターの注入口を注入ノズルの先端に差し入れネジ込み、グリースガンと接続し、充てんを開始します。
- ・BKインジェクターのゴムチューブが注入量制限筒の内面いっぱいに膨らんだら充てんをやめ、チューブクランプで注入ノズルを挟み、注入材の流れを止め、ノズルからBKインジェクターをはずします。(注入口に内蔵されている逆止弁が働き注入材の逆流がありません。)

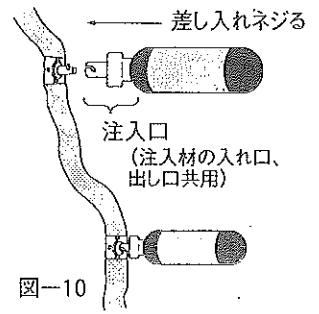
図-8

図-9



7 BKインジェクターの取付け

- ・注入材が充てんされたBKインジェクターを、図-10のように既に接着された取付パイプに差し入れネジ込み接続します。
- ・BKインジェクターの接続と同時に注入口内の逆止弁が解除され、注入材は取付パイプを通してひびわれへ浸透しつづけます。
- ・ひびわれへの注入が不足している場合は、BKインジェクターへの充てんからの操作を繰り返してください。



8 注入材の硬化養生

- ・シール材を除去しても、注入材が漏れ出ない硬さになるまで養生します。
- ・養生時間は、気温が10℃で16時間、20℃で8時間、30℃で4時間です。
- ・養生時間の判定は、ゴムチューブ内に残った注入材をゴムの上から指でさわって、硬くなっていれば養生は充分です。

9 仕上げ

- ・取付パイプをハンマーで打ち落とします。
- ・取付パイプを除去した跡は、必要に応じサンダー等で表面を平たんに仕上げます。

施工上の注意

- ①ひびわれの中に雨水、油類などのよごれがあると、注入材の接着力が低下します。
- ②施工時の気温が5℃未満では、注入材の硬化が極端に遅くなります。
- ③シール材や注入材が皮ふ、作業衣などに付着した場合、水と石けんで十分に洗い落としてください。

取り扱い上の注意

- ①健康上、注意を要する物質を含有しています。
- ②皮膚に付着すると、かぶれ、を起すおそれがあります。
- ③取り扱い中は、保護眼鏡、保護手袋、前掛けを着用する等、眼・皮膚の保護をしてください。
必要に応じて、マスクを着用し吸入しないようにしてください。
* 詳細な内容が必要な場合は製品安全データ (MSDS) を参照してください。

■使用可能なグリースガンの例

- 京都機械工具(株)製 〈Gシリーズ〉 / G-100 (100cc) ・ G-200 (200cc) ・ G-300 (300cc) ・ G-500 (500cc)
- アームテック製 〈PHシリーズ〉 / PH-200 (200cc) ・ PH-300 (300cc) ・ PH-400 (400cc) ・ PH-500 (500cc)
- (株)ヤマダコーポレーション製 〈KHシリーズ〉 / KH-32 (200cc) ・ KH-250 (300cc) ・ KH-35 (400cc) ・ KH-350 (500cc)

〔グリースガンの注意〕

- ・ロッドハンドルを引き、ロックした際に起こる油筒内のパッキンの偏りにより注入材を充てんしたとき、液漏れを起こしますので速やかにキャップをして下向きにしてください。
- ・油筒径が大きい(容量が大きい)グリースガンほど、油筒内のパッキンが偏りやすいので、容量の小さいグリースガンを使用してください。
- ・グリースガン使用後は速やかにシンナー等で、丁寧に洗浄してください。
- ・グリースガンは使用後そのまま放置しますと、注入材が固まりグリースガンが再使用できなくなりますので、シンナー等で丁寧に洗浄を行ってください。

ショーボンドマテリアル株式会社

〒350-0833 埼玉県川越市芳野台2-8-10 TEL. 049 (225) 5611(代)